



JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産観光ガイド養成講座に参加しませんか

主催：海女振興協議会

教育委員会生涯学習課 ☎(25)1268

令和元年5月に「海女（Ama）に出逢えるまち 鳥羽・志摩 ～素潜り漁に生きる女性たち」が文化庁の日本遺産に認定されました。今後、認定された海女のストーリーを対外的に紹介していくため、観光ガイドに興味のある一般のかたを対象に日本遺産ガイド育成講座を実施します。なお、講座は座学（4回）と実地（1回）の5回に分けて行われます。観光のエキスパートによる講義は貴重な機会となりますのでぜひ参加してください。



第1・4回講師

クラブツーリズム株式会社
テーマ旅行部 顧問
黒田 尚嗣 氏



第2回講師

海の博物館館長
平賀 大蔵 氏



第2回講師

伊勢志摩国立公園
自然ふれあい推進協議会
事務局長
伊藤 芳正 氏



第3回講師

株式会社
ツーリストエキスパート
高尾 さゆり 氏

	と き	内 容
第1回	12月8日（火） 午後1時30分～4時20分	・日本遺産ガイドとは ・日本遺産ガイド心得 ・コロナ禍のガイド心得について
第2回	12月16日（水） 午後1時30分～4時20分	・日本遺産構成文化財について
第3回	12月22日（火） 午後1時30分～4時	・ガイドスキル研修 ・安全対策・接遇（おもてなし）研修 ・インバウンド対応の注意点
第4回	令和3年1月19日（火） 午前9時30分～午後4時	・実地研修（鳥羽市・志摩市） ※終日バス移動
第5回	令和3年1月26日（火） 午後1時30分～3時	・修了テスト ・修了式 ・まとめ



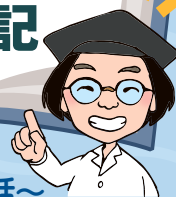
ところ 鳥羽商工会議所3階・かもめホール ※第4回を除く
参加方法 任意の様式に住所・氏名・年齢・性別・所属・団体名・電話番号を記入の上、郵送・電話・ファクスにて下記へ申し込んでください。
 ※専用の申込用紙は教育委員会窓口・図書館などで配布しています。
受講料 無料 **定員** 30人（先着順） **申込期限** 11月27日（金）
問合せ・申込先 〒514-0004 津市新町1-13-12 近鉄津新町駅ビル2階
 近畿日本ツーリスト中部津支店 日本遺産観光ガイド養成講座係
 ☎059-227-5516 ☎059-224-1527 担当：大澤・奥野

鳥羽・海藻文化革命 岩尾博士の 海藻博物記

vol.15

～スサビノリの話～

水産研究所 ☎(25)3316



黒海苔の養殖がいよいよ始まった。私が市役所職員で、鳥羽での養殖に使う種苗を作っているという鼻唄目を差し引いても、鳥羽の海苔は本当に美味しいと思う。さて、この黒海苔の標準和名（図鑑などに載っている名前）はスサビノリという。アサクサノリという和名の海苔もあり、こちらが「幻の黒海苔」ということである。最近では養殖に使われているが、全国的に養殖に使われているものは全てスサビノリである。厳密に言うとその中でも海水温が低く、塩分が高い海域でもよく生長し、病気などに強いナラワスサビノリという品種が全国的に使われている。

てあった「尻沢辺」という地名にちなむ。尻沢辺はアイヌ語のシリシャンペに対する当て字で、「シリシャンペ」↓「シサベ」↓「スサビ」となったと考えられる。スサビノリの成熟部分が擦れてほつれた着物のようになっていることから、「スサビノリ」＝「荒び海苔」であるとする説をインターネットなどで見かけるが、それは間違いである。間違いであるが、私も、そして1908年に遠藤吉三郎博士が書いた「函館支庁管内ニ於ケル海苔業ノ将来」の中に博士が地名にちなんで命名したことが載っていることを教えてくれた私の友人（もちろん海藻の研究者）もそのことを知るまでは「荒び説」をなんとなく信じていた。むしろこの「尻沢辺説」を知っている人はほとんどいないと思われる。そこで県内有数の黒海苔産地である鳥羽のみならずにはぜひ知ってほしい、できれば学校などでも教えてほしいと思う、ここに紹介した。

函館市にかつと書く。このスサビノリという名前。漢字では「尻沢辺海苔」と書く。



答志島の養殖網から採取したスサビノリ



成熟したスサビノリの葉先。荒び（すさび）模様？が見える